あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師への扉をひらく
―第32回理療教育入所式―

理療教育・就労支援部 理療教育課　伊藤　和之

「どちらからですか」「岩手です」「よくおいでになりました。たいへんでしたね」― これからバスで地元に戻られるという御家族との会話です。

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師（あはき師）への新たな道に散り敷くソメイヨシノと満開の八重桜が出迎える中、31名の方々が入所式に臨みました。平成23年４月20日、予定日から２週間遅れの挙行です。本館大会議室で行う恒例の式典が、この日ばかりは特別に感じられました。

江藤総長が式辞の壇に立ちました。

「あはきの業は江戸期に普及し、明治初期などに断絶の危機に遭いながらも、現代に普及し続けており、国家試験合格が必要な医療職の分野に位置づけられています。

皆さんには、この業が、痛みなど身体症状を取り、人を癒す一方で、人体を傷つける可能性もあることを早い段階で理解してほしい。そして、３年、５年の課程を経て、本日の志を実現させていただきたいと願うところです。

新１年生の皆さんと江藤総長の式辞

学級担任と担当ケースワーカー

また、センター生活そのものを愉しまれるとともに、御自身の健康管理の方策を持って下さい」

御家族、各自治体の福祉関係者の皆様のこれまでの御労苦に敬意を表し、引き続きの御支援をお願いし、式辞は結ばれました。

その後、幹部職員の自己紹介がなされ、式は終了しました。

昨年度実施の第19回あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師国家試験の結果は、卒業生、修了生、当センターにとって厳しいものでした。

中途視覚障害者の就労の中心は、今なお、あはき師です。しかし、入所は即資格取得を保証せず、資格取得が即社会復帰を意味しないことを、私たち職員は全学年90名の在籍者とともに再認識し、日々の学習や訓練に取り組まねばなりません。

理療教育は、障害者自立支援法上「就労移行支援（養成施設）」に位置づけられ、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」の下、人文科学概論や自然科学概論などの基礎分野、解剖学や生理学などの専門基礎分野、経絡経穴概論や東洋医学臨床論などの専門分野からカリキュラムが構成されています。専門分野には、あん摩、マッサージ、指圧、鍼、灸の各実技科目と臨床実習も含まれます。

在籍される方々は、所定の単位を取得して国家試験受験資格を得ることとなります。

私たち教官は、自立訓練、理療教育、あはき就労という視覚障害リハビリテーションモデルを次世代につなげられるよう、ケースワーカーと連携して、新入所の皆さんの支援にあたる所存です。

今年も、新入生の未来を見守るように、歴代の卒業生が残されたハナミズキの花が開き始めました。

〔病院情報〕

病院紹介シリーズ「３階病棟」
～フィッシュ哲学の「活き活き標語」で明るい職場づくり～

「フィッシュ哲学」という言葉をご存知でしょうか。シアトルの魚市場で働いている人たちが楽しんで働くことで、市場に買い物に来た人も活気に満ちあふれるという魚市場をヒントに生まれたのが「フィッシュ哲学」です。

看護界で急速に広まりました。当院の看護部も看護師が元気に働くことで、患者さんにも元気になって頂きたいという考えから、平成20年度に副看護師長が中心となり取り組みを開始しました。

３階病棟は継続してできる企画が良いという意見をもとに、アイデアを募りました。その結果、看護師が当番を決めその月の担当者が作成した標語を、毎朝の申し送りの後に読み上げるという取り組みを始め、早いもので３年目を迎えました。

標語は作成する看護師によって様々で、個性がキラリと光っています。

昨年度の標語をご紹介致します。

４月　ありがとう　優しい気持ちに　笑顔咲く
５月　広げよう　ひとりひとりの　思いやり
６月　ありがとう　感謝の言葉が　チームを育てる
７月　目を合わせ　かわす挨拶　自分から
８月　届けよう　電話の向こうに　あなたの笑顔
９月　ありがとう，Thank you，謝謝，　カムサハムニダー，
　　世界に広げよう　ありがとうの輪!!
　　みなさんで（ワ!!）
10月　何気なく　交わす言葉に　笑みこぼれ
11月　忙しい時こそ「ハイ」深呼吸
12月　ツンとすました美人より　ふっくら笑顔で
　　ご挨拶
１月　挨拶は　コミュニケーションの第１歩
２月　ほっとする　あなたの笑顔と　優しい気遣い
３月　よく聴いて　それから話そう　思いやりの言葉

標語の発表風景

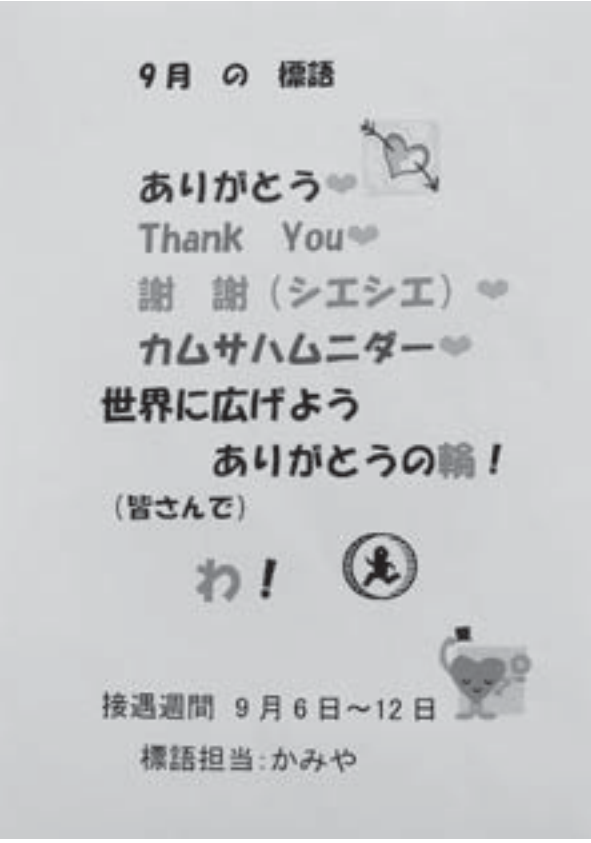
いかがでしょうか？ユニークだったり、なるほどと感心したり、１人１人の個性が光っています。その中でも９月の標語は昨年度の中で断トツのヒット賞でした。その当時の３階病棟は国際色豊かで、作成した看護師は日本語が全く通じない中国の方や、フィリピンの方を受け持っていました。看護師達は患者の国の言葉で挨拶をしました。１月の標語にもありますが、どの国でも挨拶はコミュニケーションの第１歩です。中国やフィリピンの患者さんも母国語で話しかけられた時は笑顔を見せて下さいました。きっと嬉しかったに違いありません。

ただ文化の違いを感じることもありました。些細なことをお伝えするにも、日本の患者さんと比べると、何倍ものやりとりを重ねる必要がありました。受け持ち看護師はさぞ大変だったろうと思います。一方、患者さんの立場からも同様だったと思います。

食文化では、中国は冷たい牛乳を飲まない習慣があるようです。牛乳を指差して何か伝えようとするのですが、嫌いなのか飲みたくないのかがわかりませんでした。日本語のわかるご家族が中に入ってようやく話しの内容が通じ、牛乳が嫌いではないことがわかり、その後冷たい牛乳を飲んで下さるようになりました。

いろいろな事はありましたが、言葉はわからなくても笑顔やジェスチャーで接することで、安心して入院生活を送って欲しいという看護師の気持ちをお伝えすることはできたと思いました。笑顔は世界共通です。そこで今年度は「優しさと　笑顔あふれる３階病棟」という標語でスタートしました。

皆さまの部署でも試してみてはいかがですか？あなたのそばにいる職員の思わぬ一面が発見できるかもしれません。



９月の標語ポスター